

授業計画(シラバス)

科目名	心理学	指導担当者名	猪川 一裕	
実務経験			実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:	
単位数	1単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	医療者として求められる基本的な心理学の知識と概念を身につける。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)			
使用教材	図説心理学入門 第2版			
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	知覚と認知	テキストに準拠	
	2	欲求と感情	テキストに準拠	
	3	学習・思考・記憶	テキストに準拠	
	4	学習・思考・記憶	テキストに準拠	
	5	発達と教育	テキストに準拠	
	6	性格と異常心理	テキストに準拠	
	7	性格と異常心理	テキストに準拠	
	8	まとめ	テキストに準拠	
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	倫理学		指導担当者名	渡邊 光恵	
実務経験				実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科1年		
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	1単位	週時間数	2時間		
学習到達目標	医療従事者に求められている基本的な倫理観を養う。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	医療倫理学のABC/メヂカルフレンド社、生命倫理学を学ぶのために/世界思想社				
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	現代生命倫理学の考え方	バイオエシックスをめぐる思想状況		
	2	"	バイオエシックスをめぐる思想状況①自由主義VS共同体主義②アメリカ型VSヨーロッパ型③感染症、成人病、遺伝病④環境主義VS自由主義⑤南北問題と多元主義		
	3	"	バイオエシックスの直面した4つの死①人工妊娠中絶②新生児安楽死③末期患者の安楽死④臓器移植、バイオエシックスの5原則		
	4	「bioethics」から「生命倫理学」へ	バイオエシックスの骨格、バイオエシックスの成立、ポッターのバイオエシックス、ジョージタウンのバイオエシックス		
	5	インフォームドコンセント概念の説明	インフォームドコンセントの歴史 インフォームドコンセントの必要性		
	6	インフォームドコンセント情報開示	医療行為と患者の同意、情報の内容、 どれだけの情報を伝えるか		
	7	パターナリズム	概念の説明、パターナリズムからインフォームドコンセントへ 憲法との関わり		
	8	生命の神聖さと生命の質			
履修上の留意点					
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。					

授業計画(シラバス)

科目名	生物・微生物学	指導担当者名	佐久間 文久	
実務経験			実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:	
単位数	1単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	救急救命士として必要な生物知識、微生物知識を身につける。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)			
使用教材	オリジナル教材(プリント・スライド)			
授業外学習の方法	授業プリントを使用した予復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	生命と栄養	プリントに準拠	
	2	"	プリントに準拠	
	3	細胞とは	プリントに準拠	
	4	細胞運動、細胞分裂、幹細胞	プリントに準拠	
	5	病原微生物と院内感染	プリントに準拠	
	6	感染と免疫	プリントに準拠	
	7	細菌とウイルス	プリントに準拠	
	8	真菌と寄生虫	プリントに準拠	
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	物理学	指導担当者名	阿部 純也	
実務経験			実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科3年	
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:	
単位数	1単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	<p>受講者はこの授業を履修することにより、物理学の理解に必要な基礎的な考え方、知識の習得に努める。具体的には以下の項目となる。</p> <p>(1) 物理的法則の概念、エネルギーや力学の概念の基礎。 (2) 各種法則を利用した物理的な計算方法。 (3) 図解した、ベクトルや回路図などの理解。 以上のことを身に付け、物理現象の成因をとらえる力を身に付ける。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験(80%)、出席・授業態度(20%)とし、100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>			
使用教材	オープンセサミシリーズ4(数学・理科)			
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	速度と加速度 ・ 落体の運動	速度と加速度 ・ 落体の運動	
	2	力のつり合い	力のつり合い	
	3	運動の法則 ・ 運動量の保存	運動の法則 ・ 運動量の保存	
	4	問題演習	総合問題演習	
	5	力学エネルギー・熱とエネルギー	力学エネルギー・熱とエネルギー	
	6	波動	波動	
	7	電気と磁気	電気と磁気	
	8	問題演習	総合問題演習	
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	統計学	指導担当者名	佐藤 憲一	
実務経験			実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:	
単位数	1単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	統計の基本的な概念、読解に関する知識を身につける。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)			
使用教材	系統看護学講座 基礎分野 統計学			
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	統計学とは	テキストに準拠	
	2	記述統計	テキストに準拠	
	3	推測統計	テキストに準拠	
	4	統計データの種類	テキストに準拠	
	5	"	テキストに準拠	
	6	統計データのまとめ方	テキストに準拠	
	7	"	テキストに準拠	
	8	まとめ	まとめ	
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	英語 I		指導担当者名	渡邊 光恵
実務経験				実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	基礎的な英単語及び英語文法の演習によって知識をつける			
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験の結果に、出席状況、授業への参加態度も加味する。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格)</p>			
使用教材	English Grammer Navigator in 23 Lessons			
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	導入・基本文法: 英文の特徴と種類	主部/述部・述語動詞・語順	
	2	人称・品詞・文の要素・文型	人称・動詞の分類・品詞・文の要素	
	3	文型・文の種類	文型・文の種類 平叙文(肯定文・疑問文)/否定文他	
	4	動詞と時制	基本時制・現在時制	
	5	動詞と時制	過去時制・未来時制	
	6	動詞と時制	完了時制・現在完了形・現在完了進行形・過去形との相違	
	7	動詞と時制	完了時制・過去完了形・過去完了進行形・未来完了形	
	8	助動詞	基本的な助動詞と用法	
	9	態	能動態・受動態	
	10	準動詞-不定詞	名詞的用法・形容詞的用法	
	11	準動詞-不定詞	副詞的用法・意味上の主語・使役動詞・知覚動詞	
	12	準動詞-動名詞	動名詞・目的語が動名詞とto不定詞で意味の異なる動詞	
	13	準動詞-分詞	現在分詞/過去分詞(限定用法)	
	14	準動詞-分詞	現在分詞/過去分詞(叙述用法・分詞構文)	
	15	関係詞	関係代名詞・関係副詞	
	16			
履修上の留意点				
<p>・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。</p>				

授業計画(シラバス)

科目名	英語Ⅱ	指導担当者名	渡邊 光恵
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科3年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	2時間
学習到達目標	英語Ⅰで学んだ基礎的な文法の復習と頻出問題の演習によって実践力をつける		
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験の結果に、授業で行うミニテストの結果も加味する。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格)		
使用教材	English Grammar Navigator in 23 Lessons / 基礎英語頻出問題総演習		
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	導入-頻出問題演習テキストの進め方と自学の手引き	自学範囲-イディオム・口語表現・発音/アクセント・語彙
	2	文法・語法の問題	分詞・関係詞
	3	文法・語法の問題	比較・仮定法
	4	文法・語法の問題	以下 ランダム
	5	文法・語法の問題	
	6	文法・語法の問題	
	7	文法・語法の問題	
	8	文法・語法の問題	
	9	文法・語法の問題	
	10	文法・語法の問題	
	11	文法・語法の問題	
	12	重要構文の問題・長文読解	
	13	重要構文の問題・長文読解	
	14	重要構文の問題・長文読解	
	15	重要構文の問題・長文読解	
	16		
履修上の留意点			
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。			

授業計画(シラバス)

科目名	体育実技	指導担当者名	鈴木 馨	
実務経験			実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:	
単位数	1単位	週時間数	4時間	
学習到達目標	トレーニング理論及びその方法を学び、体力の向上と怪我に強い肉体を育む。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、実技試験の結果を総合して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格)			
使用教材	オリジナル教材(プリント、スライド)、運動着、トレーニング器材			
授業外学習の方法	授業プリントを使用した予復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	プリントに準拠	
	2	上半身のトレーニング	理論・実技	
	3	下半身のトレーニング	理論・実技	
	4	体幹のトレーニング	理論・実技	
	5	上半身のトレーニング	理論・実技	
	6	下半身のトレーニング	理論・実技	
	7	体幹のトレーニング	理論・実技	
	8	全身運動、実技試験	理論・実技	
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	人体の構造と機能	指導担当者名	今田 剛
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	6単位	週時間数	4時間
学習到達目標	救急現場においては傷病者の病態を的確に判断する必要がある。その土台となる基礎知識として、人体構造を解剖学で人体機能を生理学で体系的に学ぶ。		
評価方法 評価基準	学習評価は、前期定期試験(50%)と後期定期試験(50%)にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)		
使用教材	人体の構造と機能[1]解剖生理学/医学書院、からだの地図帳、病気の地図帳、救急救命士標準テキスト改訂第9版、目で見えるカラダのメカニズム		
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	人体の構造と機能	人体の位置・方向・運動に関する用語
	2	人体の構造と機能	体表からみた人体構造と名称
	3	人体の構造と機能	体表からみえる人体構造の機能体腔内臓器の体表からの位置関係
	4	生体の構成とその役割	生体の構成体液生体維持機能代謝
	5	神経系	神経系の構成、中枢神経系
	6	神経系	末梢神経系、自律神経系
	7	神経系	脳の栄養血管、意識
	8	神経系	運動、知覚、反射
	9	感覚器系	感覚系とは視覚器平衡・聴覚器嗅覚器味覚器皮膚感覚器
	10	呼吸系	呼吸系の役割、気道の構造と機能、胸郭の構造と機能
	11	呼吸系	肺の構造と機能、酸素の取り込みと二酸化炭素の排出、呼吸の調節機能
	12	循環系	心臓の構造と機能、脈管系の構造と機能
	13	循環系	循環の成り立ち、循環の制御
	14	消化系	消化系の構成と役割、口腔・咽頭、消化管
	15	消化系	肝臓・胆道、膵臓、腹膜
	16		
履修上の留意点			
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。			

授業計画(シラバス)

科目名	人体の構造と機能	指導担当者名	今田 剛
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	6単位	週時間数	4時間
学習到達目標	救急現場においては傷病者の病態を的確に判断する必要がある。その土台となる基礎知識として、人体構造を解剖学で人体機能を生理学で体系的に学ぶ。		
評価方法 評価基準	学習評価は、前期定期試験(50%)と後期定期試験(50%)にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)		
使用教材	人体の構造と機能[1]解剖生理学/医学書院、からだの地図帳、病気の地図帳、救急救命士標準テキスト改訂第9版、目で見えるカラダのメカニズム		
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	循環器系	心臓・脈管系の構造と機能
	17	循環器系	循環の成り立ち
	18	呼吸系	呼吸系の役割
	19	呼吸系	気道の構造と機能
	20	泌尿器系・生殖系	泌尿系の構造、腎臓、尿路
	21	内分泌系・免疫系	内分泌器官
	22	筋・皮膚	筋の役割
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
30			
31			
履修上の留意点			
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。			

授業計画(シラバス)

科目名	疾患の成り立ち I		指導担当者名	今田 剛
実務経験				実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位数	3単位	週時間数	6時間	
学習到達目標	疾患の学習に必要な基本的病変、主要疾患の原因や発生機序を理解する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)			
使用教材	救急救命士標準テキスト上巻、ビジュアルノート、病気の地図帳、解剖と生理、からだの地図帳			
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授 業 計 画 後 期	1	疾患の原因、発症と経過	テキストに準拠	
		回復に必要な要素	テキストに準拠	
	2	疾患の予防	テキストに準拠	
		炎症、感染症	テキストに準拠	
	3	虚血、うっ血、出血、血栓と塞栓、梗塞、浮腫	テキストに準拠	
		糖質の代謝障害、糖尿病性昏睡、低血糖	テキストに準拠	
	4	脂質代謝異常、たんぱく質代謝異常	テキストに準拠	
		体液異常、電解質異常	テキストに準拠	
	5	酸塩基平衡障害	テキストに準拠	
		内分泌異常	テキストに準拠	
	6	退行性病変	テキストに準拠	
		進行性病変、腫瘍	テキストに準拠	
	7	先天異常、損傷	テキストに準拠	
		死、死体現象、死にかかわる手続きと検査	テキストに準拠	
	8	総復習	まとめ	
		総復習	まとめ	
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	疾患の成り立ちⅡ		指導担当者名	佐藤 武諭毅
実務経験				実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科3年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位数	2単位	週時間数	4時間	
学習到達目標	<p>【一般目標】 基本的な病変概念を細胞・組織レベルで理解できる。 各種疾患による身体内部の変化、回復の過程について理解できる。</p> <p>【到達目標】 救急救命士としての基本的な知識として学習内容を応用できる。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>			
使用教材	救急救命士標準テキスト9版上巻・下巻(へるす出版)			
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	疾患、炎症と感染	疾患の原因、発症と経過、炎症、感染症 他(P210～223)	
	2	循環障害	虚血、うっ血、出血、血栓と塞栓、梗塞、浮腫 (P224～229)	
	3	代謝障害	糖質の代謝障害、脂質の代謝障害 他 (P230～237)	
	4	退行性病変と進行性病変	退行性病変、進行性病変 (P238～242)	
	5	腫瘍、先天性異常	腫瘍とは、良性腫瘍、悪性腫瘍、内因性先天異常 他 (P243～249)	
	6	損傷	損傷、創傷治癒 (P250～252)	
	7	死	死の概念、死体現象、死に関わる手続きと検査 他 (P253～257)	
	8	まとめ	関連する救急救命士国家試験過去問題、講義全体のまとめ	
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
	16			
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	生化学	指導担当者名	齋藤 順子	
実務経験			実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科3年	
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:	
単位数	1単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	救急救命士に求められる人体の生化学を学び、疾患・病態の理解を深める。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)			
使用教材	改訂第9版救急救命士標準テキスト上巻			
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	栄養と代謝	テキストに準拠	
	2	"	テキストに準拠	
	3	外呼吸	テキストに準拠	
	4	"	テキストに準拠	
	5	循環(酸素運搬と臓器血流)	テキストに準拠	
	6	組織酸素代謝	テキストに準拠	
	7	内部環境	テキストに準拠	
	8	内部環境	テキストに準拠	
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	薬物と検査の基礎知識	指導担当者名	塩田 博幸
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	1単位	週時間数	2時間
学習到達目標	病院前救護に必要な薬物の知識と摂取経路ならびに作用機序を学ぶ。また、病院内における各種生体検査方法を学ぶ。		
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)		
使用教材	救急救命士標準テキスト上巻		
授業外学習の方法	教科書を使用した予復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授 業 計 画 後 期	1	薬物総論	
	2	薬物の有害作用	
	3	救急救命処置に用いられる薬剤	
	4	使用頻度の高い薬	
	5	輸液・輸血製剤	
	6	検査	
	7	〃	
	8	まとめ	まとめ
履修上の留意点			
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。			

授業計画(シラバス)

科目名	健康と社会保障	指導担当者名	阿部 純也	
実務経験			実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科3年	
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:	
単位数	2単位	週時間数	4時間	
学習到達目標	保健医療制度の仕組みと現状を知り、医療系専門職としての見識を広げる。また、社会保障と社会福祉を支える制度を知ることで医療従事者としての素養を育む。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)			
使用教材	改訂第9版救急救命士標準テキスト上巻			
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	人間と人間生活	テキストに準拠	
	2	科学的思考の基礎	テキストに準拠	
	3	生命倫理と医の倫理	テキストに準拠	
	4	保健医療制度の仕組みと現状①	テキストに準拠	
	5	保健医療制度の仕組みと現状②	テキストに準拠	
	6	社会保障と社会福祉を支える仕組み①	テキストに準拠	
	7	社会保障と社会福祉を支える仕組み②	テキストに準拠	
	8	社会保障について考える	テキストに準拠	
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	救急医学概論 I		指導担当者名	吉田 幸知
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位数	4単位	週時間数	4時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・五感を活用した観察方法を理解する。 ・観察用資機材の構造と使用方法について理解する。 ・五感を活用した観察情報と観察用資器材を用いた情報の意味合いを理解する。 ・傷病者等との良好な関係力構築方法と問診内容について理解する。 ・緊急度・重症度判断を理解できる。・傷病者の傷病状態に応じた救命処置等を理解する。 			
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 			
使用教材	救急救命士標準テキスト、救急観察処置スキルマニュアル			
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	観察	観察の目的と意義、バイタルサイン	
	2	現場活動の基本	状況評価～全身観察・重点観察	
	3	全身状態の観察	外見、気道、呼吸、循環	
	4	局所の観察	観察結果の表現～頭部・顔面・頸部	
	5	緊急度・重症度判断	緊急度と重症度	
	6	資器材による観察	パルスオキシメーター～血圧計	
	7	資器材による観察	心電図モニター～血糖測定器	
	8	救急救命士が行う処置	気道確保・声門上気道デバイス	
	9	//	気管挿管	
	10	体位管理・保温・止血	体位管理、体温管理	
	11	外傷処置	止血被覆、固定要領	
	12	静脈確保・薬剤投与	静脈確保、薬投	
	13	救急蘇生法	人工呼吸、胸骨圧迫、除細動器	
	14	救急蘇生法	心肺蘇生のプロトコール	
	15	傷病者搬送法	搬送法	
履修上の留意点				
<p>・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。</p>				

授業計画(シラバス)

科目名	救急医学概論Ⅱ	指導担当者名	木賊 陽一
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	4単位	週時間数	4時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・病院前医療体制について理解する事ができる。 ・災害医療体制について理解し、説明、実施する事ができる。 ・消防機関における救急活動の流れや、救命士の役割について理解できる。 		
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 		
使用教材	改訂第9版救急救命士標準テキスト上巻		
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	救急医療体制	上巻P.286～P.294
	2	救急医療体制	上巻P.286～P.294
	3	災害医療体制	上巻P.295～P.311、MCLSテキスト
	4	災害医療体制	上巻P.295～P.311、MCLSテキスト
	5	病院前医療体制	上巻P.312～P.322
	6	消防機関における救急活動の流れ	上巻P.323～P.332
	7	消防機関における救急活動の流れ	上巻P.323～P.332
	8	救急救命士の役割と責任	上巻P.333～P.336
	9	救急救命士と傷病者の関係	上巻P.337～P.344
	10	救急救命士に関する法令	上巻P.345～P.357
	11	救急救命士に関する法令	上巻P.345～P.357
	12	救急救命士の養成と生涯教育	上巻P.358～P.363
	13	安全管理と事故対応	上巻P.364～P.369
	14	感染対策	上巻P.370～P.383
	15	ストレスに対するマネージメント	上巻P.384～P.388
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 			

授業計画(シラバス)

科目名	救急症候・病態生理 I		指導担当者名	岸田全人
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位数	4単位	週時間数	4時間	
学習到達目標	救急救命士が遭遇しうる疾患の症状等を理解する事で、それぞれの疾患に対する観察、判断また応急処置を実践できる知識を身に付ける。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)			
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第9版下巻			
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	呼吸不全	総論、呼吸運動の障害	
	2	呼吸不全	気道の障害、肺胞の障害	
	3	呼吸不全	肺間質の障害	
	4	心不全	総論、病態生理	
	5	心不全	症候、種類	
	6	心不全	慢性心不全の急性増悪、現場活動	
	7	ショック	総論、循環血液量減少性ショック	
	8	ショック	心原性ショック、心外閉塞・拘束性ショック	
	9	ショック	血液分布異常性ショック	
	10	重症脳障害	総論、発症機序	
	11	重症脳障害	一次性脳病変と二次性脳病変、頭蓋内圧亢進	
	12	重症脳障害	脳ヘルニア、特殊な意識障害	
	13	心肺停止	総論、病態と原因	
	14	心肺停止	心電図分類、心肺蘇生中の循環、心拍再開後の病態	
	15	まとめ	まとめ	
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	救急症候・病態生理Ⅱ		指導担当者名	岸田全人
実務経験				実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位数	4単位	週時間数	4時間	
学習到達目標	救急救命士が遭遇しうる疾患の症状等を理解する事で、それぞれの疾患に対する観察、判断また応急処置を実践できる知識を身に付ける。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)			
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第9版下巻			
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	意識障害	A原因B随伴症候C判別を要する病態D緊急度・重症度の判断E現場活動	
	2	頭痛	A発生機序B分類C原因疾患D発症の状況E性状F随伴症候G緊急度・重症度の判断H現場活動	
	3	痙攣	A定義・概念B病態C種類D原因疾患E随伴症候F判別を要する病態G緊急度・重症度の判断H現場活動	
	4	運動麻痺	A定義・概念B発生機序C分類D原因疾患E随伴症候F判別を要する病態G緊急度・重症度の判断H現場活動	
	5	めまい	A定義・概念B発生機序C分類D原因疾患E随伴症候F判別を要する病態G緊急度・重症度の判断	
	6	呼吸困難	A定義・概念B分類C原因疾患D随伴症候E緊急度・重症度の判断F現場活動	
	7	喀血	A定義B分類C喀血による影響D原因疾患E判別を要する病態F緊急度・重症度の判断G現場活動	
	8	失神	A定義・概念B原因疾患C判別を要する病態D緊急度・重症度の判断E現場活動	
	9	胸痛	A定義・概念B発生機序C原因疾患D緊急度・重症度の判断E現場活動	
	10	動悸	A定義・概念B発生機序C原因疾患D随伴症候E緊急度・重症度の判断F現場活動	
	11	腹痛	A発生機序B原因疾患C部位D既往歴E随伴症候F緊急度・重症度の判断G現場活動	
	12	吐血・下血	A定義・概念B原因疾患C病態D判別に必要な病態E緊急度・重症度の判断F現場活動	
	13	腰痛・背部痛	A定義・概念B原因疾患C緊急度・重症度の判断D現場活動	
	14	体温上昇	A定義・概念B発症機序C病態D発熱の分類と種類E原因疾患F緊急度・重症度の判断G現場活動	
	15	まとめ	まとめ	
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	救急症候・病態生理Ⅲ	指導担当者名	田中 敏春	
実務経験			実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:	
単位数	1単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	気管挿管、薬剤投与のプロトコールについて理解する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)			
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第9版上巻			
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	除細動・気管挿管のプロトコール	除細動・気管挿管の適応	
	2	除細動・気管挿管のプロトコール	除細動・気管挿管の禁忌	
	3	除細動・気管挿管のプロトコール	除細動・気管挿管のプロトコールと手順	
	4	除細動・気管挿管のプロトコール	除細動・気管挿管 まとめ	
	5	静脈路確保・薬剤投与のプロトコール	静脈路確保について	
	6	静脈路確保・薬剤投与のプロトコール	薬剤投与について	
	7	静脈路確保・薬剤投与のプロトコール	薬剤投与のプロトコール・手順	
	8	静脈路確保・薬剤投与のプロトコール	まとめ	
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	疾病救急医学 I		指導担当者名	今田 剛
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位数	4単位	週時間数	4時間	
学習到達目標	救急救命士の現場活動に必要な各種疾患を理解する。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)			
使用教材	病気がみえる脳・神経、救急救命士標準テキスト下巻、ビジュアルノート、病気の地図帳			
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血	テキストに準拠	
	2	脳動脈瘤、くも膜下出血、脳動静脈奇形、もやもや病、髄膜炎	テキストに準拠	
	3	ギランバレー症候群、てんかん、脳腫瘍、変性疾患	テキストに準拠	
	4	呼吸不全、COPD、CO2ナルコーシス、気管支喘息	テキストに準拠	
	5	無気肺、気管支拡張症、肺炎	テキストに準拠	
	6	急性喉頭蓋炎、扁桃周囲膿瘍	テキストに準拠	
	7	肺結核、急性上気道炎、胸膜炎	テキストに準拠	
	8	気胸、肺血栓栓症、過換気症候群、肺癌	テキストに準拠	
	9	間質性肺炎、ARDS	テキストに準拠	
	10	動脈硬化症、うっ血性心不全	テキストに準拠	
	11	急性冠不全症候群、急性心筋梗塞	テキストに準拠	
	12	不安定狭心症、安定狭心症、心筋症、心タンポナーデ	テキストに準拠	
	13	心室細動、心室頻拍、心房細動	テキストに準拠	
	14	洞房ブロック、WPW症候群、洞不全症候群	テキストに準拠	
	15	心臓弁膜症、感染性心内膜炎、先天性心疾患	テキストに準拠	
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	疾病救急医学Ⅱ	指導担当者名	今田 剛
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	4単位	週時間数	4時間
学習到達目標	救急救命士の活動に必要な疾患が理解できる		
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)		
使用教材	救急救命士標準テキスト9版上巻・下巻(へるす出版)		
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	消化系疾患	テキストに準拠
	2	消化系疾患	テキストに準拠
	3	泌尿・生殖系疾患	テキストに準拠
	4	泌尿・生殖系疾患	テキストに準拠
	5	代謝・内分泌・栄養系疾患	テキストに準拠
	6	代謝・内分泌・栄養系疾患	テキストに準拠
	7	血液・免疫系疾患	テキストに準拠
	8	血液・免疫系疾患	テキストに準拠
	9	筋肉・骨格系疾患	テキストに準拠
	10	筋肉・骨格系疾患	テキストに準拠
	11	皮膚系疾患	テキストに準拠
	12	皮膚系疾患	テキストに準拠
	13	眼・耳・鼻の疾患	テキストに準拠
	14	眼・耳・鼻の疾患	テキストに準拠
	15	感染症	テキストに準拠
履修上の留意点			
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。			

授業計画(シラバス)

科目名	疾病救急医学Ⅲ	指導担当者名	岸田全人
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	4単位	週時間数	4時間
学習到達目標	救急救命士が遭遇しうる特殊な疾患の症状等を理解する事で、それぞれの疾患に対する観察、判断また応急処置を実践できる知識を身に付ける。		
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第9版下巻		
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	小児に特有な疾患	テキストに準拠
	2	小児に特有な疾患	テキストに準拠
	3	小児に特有な疾患	テキストに準拠
	4	高齢者に特有な疾患	テキストに準拠
	5	高齢者に特有な疾患	テキストに準拠
	6	高齢者に特有な疾患	テキストに準拠
	7	妊娠・分娩と救急疾患	テキストに準拠
	8	妊娠・分娩と救急疾患	テキストに準拠
	9	妊娠・分娩と救急疾患	テキストに準拠
	10	妊娠・分娩と救急疾患	テキストに準拠
	11	精神障害	テキストに準拠
	12	精神障害	テキストに準拠
	13	精神障害	テキストに準拠
	14	精神障害	テキストに準拠
	15	まとめ	まとめ
履修上の留意点			
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。			

授業計画(シラバス)

科目名	外傷救急医学 I	指導担当者名	岸田全人
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	2時間
学習到達目標	外傷は外力発生の種類、受傷機転、損傷の形態、損傷の部位などさまざまな分類があり、外傷学特有の診断、治療が必要である。外傷における救急救命士の役割は大きいため熟知する。		
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第9版下巻		
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	外傷総論	A外傷の疫学B受傷機転とエネルギーC外傷の分類D主な受傷形態
	2	外傷総論	A外傷の疫学B受傷機転とエネルギーC外傷の分類D主な受傷形態
	3	外傷の病態生理	A侵襲への反応B外傷に伴うショック
	4	外傷の病態生理	A侵襲への反応B外傷に伴うショック
	5	外傷の現場活動	A状況評価B傷病者の評価
	6	外傷の現場活動	A状況評価B傷病者の評価
	7	頭部外傷	A特徴B主な外傷C続発症・後遺症D現場活動
	8	頭部外傷	A特徴B主な外傷C続発症・後遺症D現場活動
	9	顔面・頸部外傷	A特徴B主な外傷C現場活動
	10	顔面・頸部外傷	A特徴B主な外傷C現場活動
	11	脊椎・脊髄外傷	A特徴B主な外傷C現場活動
	12	脊椎・脊髄外傷	A特徴B主な外傷C現場活動
	13	胸部外傷	A特徴B主な外傷C現場活動
	14	胸部外傷	A特徴B主な外傷C現場活動
	15	まとめ	まとめ
履修上の留意点			
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。			

授業計画(シラバス)

科目名	外傷救急医学Ⅱ	指導担当者名	岸田全人
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	2時間
学習到達目標	外傷は外力発生の種類、受傷機転、損傷の形態、損傷の部位などさまざまな分類があり、外傷学特有の診断、治療が必要である。外傷における救急救命士の役割は大きいため熟知する。		
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第9版下巻		
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	腹部外傷	A特徴B主な疾患C現場活動
	2	骨盤外傷	A特徴B主な疾患C現場活動
	3	四肢外傷	A特徴B主な疾患C現場活動
	4	皮膚・軟部組織外傷	A分類B現場活動C特殊な損傷
	5	小児・高齢者・妊婦の外傷	A小児の外傷B高齢者の外傷C妊婦の外傷
	6	小児・高齢者・妊婦の外傷	A小児の外傷B高齢者の外傷C妊婦の外傷
	7	熱傷	A受傷機転と病態B評価C処置
	8	熱傷	A受傷機転と病態B評価C処置
	9	化学損傷	A各種の化学損傷B観察C処置
	10	電撃症・雷撃症	A電撃症B雷撃症
	11	溢頸・絞頸	A溢頸・絞頸とはB観察と処置
	12	溢頸・絞頸	A溢頸・絞頸とはB観察と処置
	13	刺咬症(傷)	A刺咬症(傷)とはB哺乳類による咬症C爬虫類による咬症D節足動物による刺咬症E海洋生物による刺咬症
	14	刺咬症(傷)	A刺咬症(傷)とはB哺乳類による咬症C爬虫類による咬症D節足動物による刺咬症E海洋生物による刺咬症
	15	まとめ	まとめ
履修上の留意点			
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。			

授業計画(シラバス)

科目名	環境障害・急性中毒	指導担当者名	高橋 司
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	1単位	週時間数	2時間
学習到達目標	環境障害・急性中毒などの外部因子で発生する救急疾患・症候について理解できる		
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)		
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第9版下巻		
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	中毒総論	テキストに準拠
	2	中毒各論	テキストに準拠
	3	中毒各論	テキストに準拠
	4	異物	テキストに準拠
	5	異物	テキストに準拠
	6	溺水	テキストに準拠
	7	熱中症	テキストに準拠
	8	熱中症	テキストに準拠
	9	偶発性低体温	テキストに準拠
	10	偶発性低体温	テキストに準拠
	11	放射線障害	テキストに準拠
	12	放射線障害	テキストに準拠
	13	その他の環境障害	テキストに準拠
	14	その他の環境障害	テキストに準拠
	15	まとめ	まとめ
履修上の留意点			
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。			

授業計画(シラバス)

科目名	シミュレーション I		指導担当者名	木賊 陽一
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事			実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
単位数	6単位	週時間数	9時間	
学習到達目標	<p>1 五感と観察用資器材を活用し傷病者を的確に観察できる。 2 救命処置の適応者を判断し安全に適切な処置が行える技術を身につける。 3 傷病者の症状に適した体位管理と搬送ができる。</p> <p>・BLS(市民向け、医療従事者向け)の習得。 ・隊活動における一連の流れを習得することができる。 ・隊長の役割を認識し、包括的な力を身につける事ができる。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、以下の単元ごとに20点満点の試験、授業終了後のシミュレーション試験を行い、その合計得点にて行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格) ※単元…1 初期評価と心肺蘇生 2 声門上気道デバイスによる気道確保 3 気管挿管 4 静脈確保とアドレナリン投与 5 血糖測定と、ブドウ糖投与</p>			
使用教材	救急救命士標準テキスト、救急観察処置スキルマニュアル			
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画前期	1	五感を活用した観察	バイタルサイン、全身観察	
	2	資器材を活用した観察	聴診器、体温計、血圧計等	
	3	資器材を活用した観察	ECG、カプノメーター	
	4	気道確保、人工呼吸	用手気道確保、BVMによる人工呼吸	
	5	外傷処置	三角巾、副子等	
	6	体位管理、搬送法	ストレッチャー、バックボード	
	7	酸素、AED、BVM	酸素、AED	
	8	気道確保、異物除去	用手、エアウェイ、喉頭鏡	
	9	搬送法	緊急救出(毛布、スクープ等)	
	10	産婦人科領域の処置	分娩介助等	
	11	在宅療法継続中傷病者処置	在宅傷病者の療法別対応	
	12	産婦人科領域の処置	分娩介助等	
	13	効果測定	観察要領、体位管理、搬送法	
	14	心肺蘇生	BVM、AED、シミュレーター	
	15	心肺蘇生	BVM、AED、シミュレーター	
履修上の留意点				
1 シミュレーションをより効率的に進めるため、学生は積極的に参加し行動すること。 2 使用救急資器材の配置場所の把握と愛護的な取り扱いを徹底すること。 3 シミュレーション開始前に体操を行うこと。 ※授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	シミュレーション I		指導担当者名	木賊 陽一
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事			実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科1年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
単位数	6単位	週時間数	9時間	
学習到達目標	<p>1 五感と観察用資器材を活用し傷病者を的確に観察できる。 2 救命処置の適応者を判断し安全に適切な処置が行える技術を身につける。 3 傷病者の症状に適した体位管理と搬送ができる。</p> <p>・BLS(市民向け、医療従事者向け)の習得。 ・隊活動における一連の流れを習得する事ができる。 ・隊長の役割を認識し、包括的な力を身につける事ができる。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、以下の単元ごとに20点満点の試験、授業終了後のシミュレーション試験を行い、その合計得点にて行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格) ※単元…1 初期評価と心肺蘇生 2 声門上気道デバイスによる気道確保 3 気管挿管 4 静脈確保とアドレナリン投与 5 血糖測定と、ブドウ糖投与</p>			
使用教材	救急救命士標準テキスト、救急観察処置スキルマニュアル			
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	16	声門上気道デバイス	i-gel、コンビチューブ、LT、LM	
	17	声門上気道デバイスを含めた隊活動	適応症例に対する想定訓練	
	18	効果測定	声門上デバイス	
	19	気管挿管	気管内チューブ、スタイレット	
	20	気管挿管を含めた隊活動	適応症例に対する想定訓練	
	21	効果測定	気管挿管	
	22	静脈確保	留置針、輸液セット	
	23	静脈確保を含めた隊活動	適応症例に対する想定訓練	
	24	アドレナリン投与	輸液セット、アドレナリン	
	25	アドレナリン投与	輸液セット、アドレナリン	
	26	効果測定	輸液・アドレナリン投与	
	27	血糖測定、ブドウ糖投与	血糖測定器、輸液ライン、ブドウ糖	
	28	血糖測定、ブドウ糖投与を含めた隊活動	適応症例に対する想定訓練	
	29	効果測定	血糖測定とブドウ糖投与	
	30	エピペン	エピペントレーナー	
履修上の留意点				
<p>1 シミュレーションをより効率的に進めるため、学生は積極的に参加し行動すること。 2 使用救急資器材の配置場所の把握と愛護的な取り扱いを徹底すること。 3 シミュレーション開始前に体操を行うこと。 ※授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。</p>				

授業計画(シラバス)

科目名	シミュレーションⅡ	指導担当者名	横山 亜矢
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
単位数	7単位	週時間数	11時間
学習到達目標	1 個々の救命処置スキルのさらなる質向上を目指す。 2 隊員間の情報共有と役割分担を円滑に行うことができる。 3 安全管理を意識した救急活動を行うことができる。		
評価方法 評価基準	学習評価は、前期効果測定、後期効果測定を総合して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格)		
使用教材	救急救命士標準テキスト、救急観察処置スキルマニュアル		
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	基本的な救急活動	状況評価から継続観察まで
	2	疾患対応(異物)	早期異物除去と呼吸管理
	3	外傷対応(転倒)	転倒原因の把握と適切な処置
	4	疾患対応(胸痛)	適切な観察と緊急度判断
	5	外傷対応(交通外傷)	緊急度判断と適切な処置
	6	外傷対応(墜落・転落)	推定外力と受傷部位の想像力
	7	疾患対応(意識障害)	観察・問診からの原因疾患の特定
	8	CPA対応(VF)	早期除細動とアドレナリン投与
	9	疾患対応(アナフィラキシー)	バイタルサインの把握と輸液
	10	疾患対応(重症熱傷)	保温・感染防止と輸液
	11	中毒対応(硫化水素)	安全管理・応援要請と現場保存
	12	疾患対応(精神科)	傷病者接遇及び警察官との連携
	13	災害対応(列車事故)	先着隊の行動
	14	災害対応(交通事故)	応援隊の行動
	15	前期効果測定	疾患対応
履修上の留意点			
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。			

授業計画(シラバス)

科目名	シミュレーションⅡ	指導担当者名	横山 亜矢
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
単位数	7単位	週時間数	10時間
学習到達目標	<p>1個々の救命処置スキルのさらなる質向上を目指す。 2隊員間の情報共有と役割分担を円滑に行うことができる。 3安全管理を意識した救急活動を行うことができる。</p> <p>・隊長の役割を認識し、包括的な力を身につける。 ・リスクマネジメントを含め、適切な判断ができる。 ・各病態について原因から処置まで説明、実施する事ができる。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、前期効果測定、後期効果測定を総合して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格)</p>		
使用教材	救急救命士標準テキスト、救急観察処置スキルマニュアル		
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	疾患対応(意識障害・頭痛)	観察・問診・運動機能観察
	17	疾患対応(痙攣)	問診と観察からの緊急度判断
	18	疾患対応(めまい)	観察と問診及び医療機関選定
	19	疾患対応(呼吸困難)	症状の把握と緊急度判断
	20	外傷対応(交通外傷)	緊急度判断と適切な処置
	21	外傷(刺創)	バイタルの把握と適切な外傷処置
	22	CPA対応(溺水)	吐物除去と呼吸管理
	23	CPA対応(乳児)	呼吸管理と胸骨圧迫
	24	疾患対応(動悸)	問診と心電図波形の判断力
	25	疾患対応(意識障害)	意識障害の原因特定と緊急度判断
	26	中毒対応(胸痛)	胸痛の原因特定と緊急度判断
	27	疾患対応(腹痛)	腹痛の原因特定と緊急度判断
	28	外傷対応(失神)	緊急度判断と適切な処置
	29	外傷対応(腹部外傷)	緊急度判断と適切な処置
30	後期効果測定	外傷対応	
履修上の留意点			
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。			

授業計画(シラバス)

科目名	シミュレーションⅢ		指導担当者名	高橋司・渡邊好孝・横山亜矢	
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事			実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科3年		
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
単位数	7単位	週時間数	10時間		
学習到達目標	<p>1 特殊災害における基本的な活動ができる。 2 救急隊として、傷病者及び部隊の安全に配慮した活動ができる。 3 救急隊長として、事故内容に応じた活動方針を隊員に指示できる。</p> <p>・隊長の役割を認識し、包括的な力を身につける。 ・リスクマネジメントを含め、適切な判断ができる。 ・各病態について原因から処置まで説明、実施する事ができる。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、前期効果測定、後期効果測定を総合して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格)</p>				
使用教材	救急救命士標準テキスト、救急観察処置スキルマニュアル				
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	基本的な救急活動	状況評価から継続観察まで		
	2	疾患対応(異物)	早期異物除去と呼吸管理		
	3	外傷対応(転倒)	転倒原因の把握と適切な処置		
	4	疾患対応(胸痛)	適切な観察と緊急度判断		
	5	外傷対応(交通外傷)	緊急度判断と適切な処置		
	6	外傷対応(墜落・転落)	推定外力と受傷部位の想像力		
	7	疾患対応(意識障害)	観察・問診からの原因疾患の特定		
	8	CPA対応(VF)	早期除細動とアドレナリン投与		
	9	疾患対応(アナフィラキシー)	バイタルサインの把握と輸液		
	10	疾患対応(重症熱傷)	保温・感染防止と輸液		
	11	中毒対応(硫化水素)	安全管理・応援要請と現場保存		
	12	疾患対応(精神科)	傷病者接遇及び警察官との連携		
	13	災害対応(列車事故)	先着隊の行動		
	14	災害対応(交通事故)	応援隊の行動		
			前期効果測定	疾患対応	
履修上の留意点					
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。					

授業計画(シラバス)

科目名	シミュレーションⅢ	指導担当者名	高橋司・渡邊好孝・横山亜矢
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事		実務経験： 有
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科3年
授業方法	講義：	演習：	実習：○ 実技：
単位数	7単位	週時間数	11時間
学習到達目標	<p>1 特殊災害における基本的な活動ができる。 2 救急隊として、傷病者及び部隊の安全に配慮した活動ができる。 3 救急隊長として、事故内容に応じた活動方針を隊員に指示できる。</p> <p>・隊長の役割を認識し、包括的な力を身につける。 ・リスクマネジメントを含め、適切な判断ができる。 ・各病態について原因から処置まで説明、実施する事ができる。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、前期効果測定、後期効果測定を総合して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格)</p>		
使用教材	救急救命士標準テキスト、救急観察処置スキルマニュアル		
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	疾患対応(意識障害・頭痛)	観察・問診・運動機能観察
	17	疾患対応(痙攣)	問診と観察からの緊急度判断
	18	疾患対応(めまい)	観察と問診及び医療機関選定
	19	疾患対応(呼吸困難)	症状の把握と緊急度判断
	20	外傷対応(交通外傷)	緊急度判断と適切な処置
	21	外傷(刺創)	バイタルの把握と適切な外傷処置
	22	CPA対応(溺水)	吐物除去と呼吸管理
	23	CPA対応(乳児)	呼吸管理と胸骨圧迫
	24	疾患対応(動悸)	問診と心電図波形の判断力
	25	疾患対応(意識障害)	意識障害の原因特定と緊急度判断
	26	中毒対応(胸痛)	胸痛の原因特定と緊急度判断
	27	疾患対応(腹痛)	腹痛の原因特定と緊急度判断
	28	外傷対応(失神)	緊急度判断と適切な処置
	29	外傷対応(腹部外傷)	緊急度判断と適切な処置
30	後期効果測定	外傷対応	
履修上の留意点			
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。			

授業計画(シラバス)

科目名	病院内実習		指導担当者名	実習指導者	
実務経験				実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科3年		
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:	
単位数	4単位	週時間数	36時間		
学習到達目標	関連知識の応用と、特定行為に係わる技術の見学を主体とし、診療補助に対する理解を深める。				
評価方法 評価基準	学習評価は、実習指導者が実習態度、理解度、総合評価についてそれぞれ4段階で行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・積極的に適切な実習を行い、業務を理解できたもの…A, ・積極性に欠けたが、業務については理解ができたもの…B, ・積極性や業務理解に更に努力を要するもの…C ・実習態度や業務理解に問題があると判断された等、再実習が望まれるもの…D(不合格)				
使用教材	救急救命士標準テキスト				
授業外学習の方法	レポート作成、教科書を使用した予復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	臨床実習	病院の各部門を見学し、病院の機能について認識を深める。		
	2	臨床実習	医師、看護師等医療スタッフの仕事を理解し、その連携を知る。		
	3	臨床実習	病院における救急患者への対応の仕組みを知る。		
	4	臨床実習	救急室に搬入された救急患者への処置、診断の全体像を理解する。		
	5	臨床実習	ICU(集中治療室)における患者管理を理解する。		
				救急患者、家族に対するいたわりの心を持つ。	
				インフォームドコンセントの重要性を理解する。	
	履修上の留意点				

授業計画(シラバス)

科目名	一般知能 I	指導担当者名	岡崎 史紹	
実務経験			実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:	
単位数	1単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	情報処置及び課題解決に必要とされる論理的思考力を身に付ける。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)			
使用教材	オープンセサミシリーズ5(一般知能)			
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	順序関係	使用テキストに準拠	
	2	対応関係	使用テキストに準拠	
	3	集合	使用テキストに準拠	
	4	論理	使用テキストに準拠	
	5	位置関係	使用テキストに準拠	
	6	試合	使用テキストに準拠	
	7	証言	使用テキストに準拠	
	8	まとめ	まとめ	
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	一般知能Ⅱ		指導担当者名	岡崎 史紹
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科3年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	一般知能Ⅰで学んだ論理的思考を活かし、応用的な情報処置及び課題解決能力を演習を通して身に付ける。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)			
使用教材	オープンセサミシリーズ5(一般知能)			
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	暗号	使用テキストに準拠	
	2	暗号	使用テキストに準拠	
	3	数量	使用テキストに準拠	
	4	数量	使用テキストに準拠	
	5	日暦算	使用テキストに準拠	
	6	日暦算	使用テキストに準拠	
	7	手順	使用テキストに準拠	
	8	手順	使用テキストに準拠	
	9	道順	使用テキストに準拠	
	10	道順	使用テキストに準拠	
	11	平面図形	使用テキストに準拠	
	12	平面図形	使用テキストに準拠	
	13	平面図形	使用テキストに準拠	
	14	立体構成	使用テキストに準拠	
	15	立体構成	使用テキストに準拠	
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	教養 I (国語A)	指導担当者名	岡崎 史紹	
実務経験			実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:	
単位数	1単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	文章理解に必要な基本的な語彙力、読解技術を身につける。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)			
使用教材	オープンセサミシリーズ3(文章理解・国語・文学・芸術)			
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	漢字の読み	テキストに準拠	
	2	"	テキストに準拠	
	3	幹事の手取り	テキストに準拠	
	4	"	テキストに準拠	
	5	類義語・対義語	テキストに準拠	
	6	"	テキストに準拠	
	7	四字熟語・ことわざ	テキストに準拠	
	8	現代文法	テキストに準拠	
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	教養Ⅱ(国語B)	指導担当者名	阿部 純也	
実務経験			実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科3年	
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:	
単位数	1単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	教養Ⅰで学んだ語彙力、読解技術を活かし、演習を通し文章理解の実践力を養う。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)			
使用教材	オープンセサミシリーズ3(文章理解・国語・文学・芸術)			
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	文章理解	テキストに準拠	
	2	文章読解の基礎	テキストに準拠	
	3	趣旨把握・内容合致	テキストに準拠	
	4	"	テキストに準拠	
	5	文章整序	テキストに準拠	
	6	"	テキストに準拠	
	7	空欄補充	テキストに準拠	
	8	まとめ	まとめ	
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	教養Ⅲ(数学)	指導担当者名	林 秀樹
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	6単位	週時間数	2時間
学習到達目標	問題演習を通し、数学的思考と論理的思考を養う。		
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)		
使用教材	オープンセサミシリーズ4(数学・理科)		
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	因数分解	テキストに準拠
	2	指数法則	テキストに準拠
	3	平方根	テキストに準拠
	4	正式の除法	テキストに準拠
	5	対象式	テキストに準拠
	6	二次関数のグラフ	テキストに準拠
	7	二次関数の最大と最小	テキストに準拠
	8	グラフの移動	テキストに準拠
	9	二次方程式の解法	テキストに準拠
	10	二次方程式と二次関数の関係	テキストに準拠
	11	二次不等式の解法	テキストに準拠
	12	境界数	テキストに準拠
	13	カイト係数の関係	テキストに準拠
	14	解と係数の関係	テキストに準拠
	15	絶対値記号を含む方程式・不等式	テキストに準拠
履修上の留意点			
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。			

授業計画(シラバス)

科目名	教養Ⅲ(数学)	指導担当者名	林 秀樹
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	6単位	週時間数	4時間
学習到達目標	問題演習を通し、数学的思考と論理的思考を養う。		
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)		
使用教材	オープンセサミシリーズ4(数学・理科)		
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	16	剰余の定理・因数定理	テキストに準拠
	17	高次方程式・不等式	テキストに準拠
	18	点	テキストに準拠
	19	直線	テキストに準拠
	20	円	テキストに準拠
	21	領域	テキストに準拠
	22	三角比	テキストに準拠
	23	三角関数	テキストに準拠
	24	正弦定理・余弦定理、三角形の面積	テキストに準拠
	25	三角方程式	テキストに準拠
	26	等差数列・等比数列	テキストに準拠
	27	いろいろな数列	テキストに準拠
	28	問題演習	問題演習
	29	問題演習	問題演習
	30	まとめ	まとめ
履修上の留意点			
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。			

授業計画(シラバス)

科目名	教養Ⅳ(政治学)		指導担当者名	阿部友紀
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	<p>受講者はこの授業を履修することにより、現代社会の成り立ち及び国内の政治の諸制度、国際情勢、経済状況を理解するために必要な基礎的な考え方、知識の習得に努める。具体的には以下の項目となる。</p> <p>(1)政治:民主政治の形成に至るまでの世界の主要な歴史と制度、わが国の政治諸制度と法制度の発展による現代社会の形成に至る流れ。</p> <p>(2)時事問題:現代の国内外の諸問題のについて現状把握。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験(60%)、出席(20%)、授業態度(20%)とし、100点法で評点する。</p> <p>100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <p>・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>			
使用教材	オープンセサミシリーズ1(政治・経済・社会)			
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	民主政治の基礎原理	基本原理の理解(国家観の変遷・国民主権・基本的人権の歴史)	
	2	民主政治の基礎原理	基本原理の理解(社会契約説・主要国の政治制度)	
	3	日本国憲法と帝国憲法	基本原理の理解(憲法の役割・帝国憲法との比較)	
	4	日本国憲法・基本的人権	基本原理の理解(基本原理・人権享有主体・憲法条文・天皇)	
	5	自由権	基本原理の理解(自由権的基本権・憲法条文)	
	6	社会権・其他人権・新しい人権	基本原理の理解(人権の比較・人権の根拠・憲法条文)	
	7	国会	基本原理の理解(国会諸制度・衆議院の優越・国会の権限)	
	8	国会・内閣	基本原理の理解(議院内閣制・内閣の権限・内閣総理大臣)	
	9	内閣・司法	基本原理の理解(内閣総辞職・解散・裁判所の権限)	
	10	司法・地方自治	基本原理の理解(三権分立・地方自治のしくみ・直接請求権)	
	11	政治の諸問題	基本原理の理解(選挙制度・政党政治)	
	12	政治の諸問題	基本原理の理解(政治の諸問題・憲法改正)	
	13	国際政治	基本原理の理解(国際政治の基本・国際連盟・国際連合)	
	14	国際政治	基本原理の理解(国際連合と専門機関・国際政治の諸問題)	
	15	まとめ・最近制定・改正された法律	重要箇所の確認、復習	
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	教養Ⅴ(経済学)	指導担当者名	阿部友紀
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>受講者はこの授業を履修することにより、現代社会の成り立ち及び国内の政治の諸制度、国際情勢、経済状況を理解するために必要な基礎的な考え方、知識の習得に努める。具体的には以下の項目となる。</p> <p>(1)経済:近代以降の経済体系の発展から現代にいたるまでの経済の仕組み及び、わが国の経済循環と国際社会との関わり。 (2)時事問題:現代の国内外の諸問題のについて現状把握。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験(60%)、出席(20%)、授業態度(20%)とし、100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>		
使用教材	オープンセサミシリーズ1(政治・経済・社会)		
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	市場経済	基本原理の理解(需要と供給の法則・市場の種類としくみ)
	2	市場経済	基本原理の理解(企業形態・株式会社)
	3	経済制度	基本原理の理解
	4	需給曲線・市場	基本原理の理解
	5	企業形態	基本原理の理解
	6	株式会社	基本原理の理解
	7	景気循環	基本原理の理解
	8	定期テスト	基本原理の理解
	9	金融政策	基本原理の理解
	10	財政・土放・租税	基本原理の理解
	11	財政・財投・国債	基本原理の理解
	12	財政政策・テスト説明	基本原理の理解
	13	問題演習	基本原理の理解
	14	"	
	15	まとめ	まとめ
履修上の留意点			
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。			

授業計画(シラバス)

科目名	教養Ⅵ(歴史)		指導担当者名	阿部 純也
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	<p>受講者はこの授業を履修することにより、現代社会の成り立ちを理解するために必要な基礎的な考え方、知識の習得に努める。具体的には以下の項目となる。</p> <p>(1) 歴史：日本と世界の主要な歴史とそれをもとに現代社会の形成に至る流れ。</p> <p>(2) 時事問題：現代の国内外の諸問題のについて現状把握。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験(80%)、出席・授業態度(20%)とし、100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>			
使用教材	オープンセサミシリーズ1(政治・経済・社会)・2(日本史・世界史・地理・思想)			
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	経済史	基本原理の理解	
	2	国際経済	基本原理の理解	
	3	国際経済	基本原理の理解	
	4	過去問テスト・日本史	過去問実施・鎌倉時代	
	5	過去問テスト・日本史	過去問実施・鎌倉時代	
	6	日本史	鎌倉時代	
	7	日本史	鎌倉時代	
	8	世界史	ルネサンス・航海時代	
	9	世界史	ルネサンス・航海時代	
	10	日本史・世界史	鎌倉文化・ヨーロッパ近代国家の形成	
	11	日本史・世界史	鎌倉文化・ヨーロッパ近代国家の形成	
	12	日本史・世界史	室町時代・市民革命	
	13	日本史・世界史	室町時代・市民革命	
	14	まとめ	重要箇所の確認、復習	
	15	まとめ	重要箇所の確認、復習	
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	教養Ⅶ(総合)	指導担当者名	阿部 純也
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科3年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	2時間
学習到達目標	<p>受講者はこの授業を履修することにより、現代社会の成り立ちを理解するために必要な基礎的な考え方、知識の習得に努める。具体的には以下の項目となる。</p> <p>(1) 歴史：日本と世界の主要な歴史とそれをもとに現代社会の形成に至る流れ。 (2) 地理：世界各国の地勢及び地誌を産業や人口的な面などから分析。 (3) 政治経済：民主政治の展開と現代社会の政治問題、経済問題。 (4) 時事問題：現代の国内外の諸問題のについて現状把握。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験(80%)、出席・授業態度(20%)とし、100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>		
使用教材	オープンゼミシリーズ1(政治・経済・社会)・2(日本史・世界史・地理・思想)		
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	日本史(古代)	古代
	2	日本史(中世)	中世
	3	日本史(近世)	近世
	4	日本史(近代)	近代
	5	日本史(近現代)	近現代
	6	問題演習	問題演習
	7	世界史(古代・中世)	古代・中世
	8	世界史(近世)	近世
	9	世界史(近代ヨーロッパ)	近代ヨーロッパ
	10	世界史(中国・アジア史)	中国・アジア史
	11	世界史(近現代史)	近現代史
	12	問題演習	問題演習
	13	地理(地形・気候)	地形・気候
	14	地理(気候・農業)	気候・農業
	15	地理(農業・工業)	農業・工業
履修上の留意点			
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。			

授業計画(シラバス)

科目名	プレゼンテーション学 I		指導担当者名	久下 卓保
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	プレゼンテーション、コミュニケーション技法を学び、コミュニケーション検定初級の合格を目指す。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験(60%)、検定成績(30%)、授業態度(10%)とし、100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)			
使用教材	コミュニケーション技法、コミュニケーション検定初級 公式ガイドブック&問題集			
授業外学習の方法	教科書を使用した予復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	コミュニケーションの基本を身につけよう	テキストに準拠	
	2	〃	テキストに準拠	
	3	きれいな発声・発音を身につけよう	テキストに準拠	
	4	〃	テキストに準拠	
	5	正しい日本語を身につけよう	テキストに準拠	
	6	〃	テキストに準拠	
	7	話すときの心構えを理解しよう	テキストに準拠	
	8	〃	テキストに準拠	
	9	効果的な話し方を身につけよう	テキストに準拠	
	10	〃	テキストに準拠	
	11	効果的な表現力を身につけよう	テキストに準拠	
	12	〃	テキストに準拠	
	13	聞くことの重要性	テキストに準拠	
	14	各種コミュニケーション場面とポイント	テキストに準拠	
		15	まとめ	まとめ
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	プレゼンテーション学Ⅱ		指導担当者名	横山 亜矢
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位数	4単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	ビジネス文書の作成要領やマナーを学び、ビジネス検定初級の合格を目指す。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験(60%)、検定成績(30%)、授業態度(10%)とし、100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)			
使用教材	ビジネス文書検定 受験ガイド3級			
授業外学習の方法	教科書を使用した予復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	就職活動の準備とスタート	心構え、活動の流れ	
	2	自分と職業を理解する	自分自身を知る。職業を知る。志望動機	
	3	自己PRについて	自己PRの方法・自分史	
	4	情報収集について	情報収集	
	5	ビジネス文章	現代表記・常用漢字	
	6	表記技能	文章表現・用語の使い方	
	7	表現技能 ミニテスト	ミニテスト・解説	
	8	第Ⅱ章 ミニテスト	ミニテスト・解説	
	9	定期テスト	個条書・文章の要約	
	10	集団討論	集団討論実技	
	11	第Ⅱ章まとめ	振り返り・まとめ	
	12	過去問演習	過去問実施・解説	
	13	過去問演習	過去問実施・解説	
	14	第Ⅲ章 実務技能	社内文書の書き方	
	15	ミニテスト	過去問実施・解説	
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	プレゼンテーション学Ⅱ		指導担当者名	横山 亜矢
実務経験				実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
単位数	4単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	ビジネス文書の作成要領やマナーを学び、ビジネス検定初級の合格を目指す。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験(60%)、検定成績(30%)、授業態度(10%)とし、100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)			
使用教材	ビジネス文書検定 受験ガイド3級			
授業外学習の方法	教科書を使用した予復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	16	ミニテスト	過去問実施・解説	
	17	郵便の知識	用紙の大きさ・紙質	
	18	コミュニケーション実技	指揮能力・役割分担	
	19	印刷	校正	
	20	実戦テスト	第Ⅲ章実務技能	
	21	検定試験過去問	過去問実施	
	22	検定試験対策	過去問実施	
	23	面接対応	実技	
	24	面接対応	実技	
	25	過去問演習	過去問実施・解説	
	26	過去問演習	過去問実施・解説	
	27	過去問演習	過去問実施・解説	
	28	過去問演習	過去問実施・解説	
	29	過去問演習	過去問実施・解説	
	30	過去問演習	過去問実施・解説	
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	プレゼンテーション学Ⅲ	指導担当者名	久下 卓保
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科3年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	4単位	週時間数	4時間
学習到達目標	プレゼンテーション、コミュニケーション技法を学び、コミュニケーション検定上級の合格を目指す。		
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験(60%)、検定成績(30%)、授業態度(10%)とし、100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)		
使用教材	コミュニケーション検定 上級 公式ガイドブック&問題集、プレゼンテーション技法		
授業外学習の方法	教科書を使用した予復習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	ワークショップで学ぶためのルール	テキストに準拠
	2	"	テキストに準拠
	3	コミュニケーションの基礎知識	テキストに準拠
	4	"	テキストに準拠
	5	意見を出すための基礎技術	テキストに準拠
	6	"	テキストに準拠
	7	プレゼンテーションツールの技術	テキストに準拠
	8	"	テキストに準拠
	9	ビジネスコミュニケーションの技術	テキストに準拠
	10	"	テキストに準拠
	11	論理的思考の基礎	テキストに準拠
	12	"	テキストに準拠
	13	コミュニケーションの持つ力	テキストに準拠
	14	聞く力、話す力	テキストに準拠
	15	まとめ	まとめ
履修上の留意点			
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。			

授業計画(シラバス)

科目名	国際協力概論	指導担当者名	横山 亜矢	
実務経験			実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:	
単位数	2単位	週時間数	30時間	
学習到達目標	国外における病院前救急医療の実情を知り、現地での見聞を広げることで、救急救命士としての見識を深める。			
評価方法 評価基準	学習評価は、レポート(60%)、出席状況(20%)、授業態度(20%)として行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格)			
使用教材	救急救命士標準テキスト			
授業外学習の方法	インターネット等を活用した調べ学習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	海外研修	国外での病院前救急医療体制に関する見学・研修	
	2	レポート提出	現地での研修に関するレポート作成	
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	コンピュータ演習		指導担当者名	古川美恵子
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	正しいビジネス文書の作成 サーティファイWord文書処理技能認定試験3級合格			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、課題提出、小テスト及び授業への取り組み姿勢等を100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)			
使用教材	クイックマスターWord2016(ウイネット)・文書処理技能認定試験3級問題集(サーティファイ)			
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	タッチタイピング練習	タッチタイピングの理解、タイピングソフトの活用	
	2	Wordの基本操作、文字入力	画面構成、名称等の理解	
	3	文書の編集	文書の書式設定、さまざまな編集機能の理解	
	4	様々な機能	メリハリのある文書作成の実践	
	5	ビジネス文書の成り立ち	ルールに則った形式の理解	
	6	新規文書作成	新規ビジネス文書の作成	
	7	表作成と編集①	罫線と文字入力の理解	
	8	表作成と編集②	効率のよい表作成の理解	
	9	図形の作成と編集	画像の挿入等の理解	
	10	文書処理技能認定試験3級問題集	文書作成技能とビジネス実務への展開能力の実践	
	11	文書処理技能認定試験3級問題集	文書作成技能とビジネス実務への展開能力の実践	
	12	文書処理技能認定試験3級問題集	文書作成技能とビジネス実務への展開能力の実践	
	13	文書処理技能認定試験3級問題集	文書作成技能とビジネス実務への展開能力の実践	
	14	文書処理技能認定試験3級問題集	文書作成技能とビジネス実務への展開能力の実践	
	15	文書処理技能認定試験3級問題集	文書作成技能とビジネス実務への展開能力の実践	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・タッチタイピングの習得 ・実務における正しいビジネス文書の作成 ・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 				

授業計画(シラバス)

科目名	コンピュータ演習		指導担当者名	古川美恵子
実務経験				実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:
単位数	2単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	正しいビジネス文書の作成 サーティファイWord文書処理技能認定試験3級合格			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、課題提出、小テスト及び授業への取り組み姿勢等を100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)			
使用教材	クイックマスターWord2016(ウイネット)・文書処理技能認定試験3級問題集(サーティファイ)			
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	16	タッチタイピング練習	タッチタイピングの理解、タイピングソフトの活用	
	17	Wordの基本操作、文字入力	画面構成、名称等の理解	
	18	文書の編集	文書の書式設定、さまざまな編集機能の理解	
	19	様々な機能	メリハリのある文書作成の実践	
	20	ビジネス文書の成り立ち	ルールに則った形式の理解	
	21	新規文書作成	新規ビジネス文書の作成	
	22	表作成と編集①	罫線と文字入力の理解	
	23	表作成と編集②	効率のよい表作成の理解	
	24	図形の作成と編集	画像の挿入等の理解	
	25	ビジネス文書の作成	文書作成技能の実践	
	26	ビジネス文書の作成	文書作成技能の実践	
	27	ビジネス文書の作成	文書作成技能の実践	
	28	ビジネス文書の作成	文書作成技能の実践	
	29	ビジネス文書の作成	文書作成技能の実践	
30	ビジネス文書の作成	文書作成技能の実践		
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・タッチタイピングの習得 ・実務における正しいビジネス文書の作成 ・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 				

授業計画(シラバス)

科目名	救急総合学 I	指導担当者名	大内 学	
実務経験			実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:	
単位数	1単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	心電図に関わる基礎的な知識を身につけ、救急救命士としての総合的な観察能力を養う。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)			
使用教材	オリジナル教材(スライド、プリント)			
授業外学習の方法	授業プリントを使用した予復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	心電図の基礎知識	基本波形	
	2	標準12誘導心電図	測定法、記録法	
	3	"		
	4	不整脈	洞停止と洞房ブロック	
	5	"	心房細動と心房粗動、色々な上室性不整脈	
	6	"	心室細動と心室頻拍、色々な心室性不整脈	
	7	虚血性心疾患	急性心筋梗塞と狭心症	
	8	まとめ	まとめ	
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	救急総合学Ⅱ		指導担当者名	横山 亜矢	
実務経験	消防機関での救急救命士業務			実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科3年		
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	2単位		週時間数	4時間	
学習到達目標	救急救命士として求められる総合的な観察・対応能力を養う				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	救急救命士標準テキスト上下巻				
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	国家試験対策	使用テキストに準拠		
	2	国家試験対策	使用テキストに準拠		
	3	国家試験対策	使用テキストに準拠		
	4	国家試験対策	使用テキストに準拠		
	5	国家試験対策	使用テキストに準拠		
	6	国家試験対策	使用テキストに準拠		
	7	国家試験対策	使用テキストに準拠		
	8	国家試験対策	使用テキストに準拠		
	9	国家試験対策	使用テキストに準拠		
	10	まとめ	まとめ		
履修上の留意点					
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。					

授業計画(シラバス)

科目名	応用救急学	指導担当者名	高橋 司
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科3年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
単位数	2単位	週時間数	4時間
学習到達目標	1, 2年次で学んだ救急救命士としての知識を活かし、特殊な疾患に対する応用的な対応を学ぶ。		
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)		
使用教材	救急救命士標準テキスト上下巻		
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	国家試験対策	使用テキストに準拠
	2	国家試験対策	使用テキストに準拠
	3	国家試験対策	使用テキストに準拠
	4	国家試験対策	使用テキストに準拠
	5	国家試験対策	使用テキストに準拠
	6	国家試験対策	使用テキストに準拠
	7	国家試験対策	使用テキストに準拠
	8	国家試験対策	使用テキストに準拠
	9	国家試験対策	使用テキストに準拠
	10	まとめ	まとめ
履修上の留意点			
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。			

授業計画(シラバス)

科目名	臨床救急医学各論 I	指導担当者名	齊藤 孝之	
実務経験			実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科3年	
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:	
単位数	1単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	救急救命士として必要な薬物と検査に関する知識を身につける。			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)			
使用教材	救急救命士標準テキスト上下巻			
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	薬物総論	テキストに準拠	
	2	薬物の有害作用	テキストに準拠	
	3	救急救命処置に用いられる薬剤	テキストに準拠	
	4	使用頻度の高い薬剤	テキストに準拠	
	5	輸液・輸血製剤	テキストに準拠	
	6	保存と保守管理	テキストに準拠	
	7	検査	テキストに準拠	
	8	まとめ	まとめ	
履修上の留意点				
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。				

授業計画(シラバス)

科目名	臨床救急医学各論Ⅱ		指導担当者名	横山 亜矢	
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事			実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	救急救命士科3年		
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	1単位		週時間数	2時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・病院前医療体制について理解する事ができる。 ・災害医療体制について理解し、説明、実施する事ができる。 ・消防機関における救急活動の流れや、救命士の役割について説明できる。 ・病院前医療体制の分野の過去問題を9割正解する事ができる。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	改訂第9版救急救命士標準テキスト				
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授 業 計 画 後 期	1	救急医療体制	上巻P.286～P.294		
	2	災害医療体制	上巻P.295～P.311		
	3	病院前医療体制	上巻P.312～P.322		
	4	消防機関における救急活動の流れ救急救	上巻P.323～P.336		
	5	救急救命士と傷病者の関係救急救命士に	上巻P.337～P.357		
	6	救急救命士の養成と生涯教育	上巻P.358～P.363		
	7	安全管理と事故対応感染対策	上巻P.364～P.383		
	8	ストレスに対するマネージメント	上巻P.384～P.388		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 					

授業計画(シラバス)

科目名	臨床救急医学各論Ⅲ	指導担当者名	渡邊 好孝	
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事		実務経験: 有	
開講時期	後期	対象学科学年	救急救命士科3年	
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:	
単位数	1単位	週時間数	2時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・五感を活用した観察情報と観察用資器材を用いた情報の意味合いを理解する。 ・緊急度・重症度判断を理解できる。・傷病者の傷病状態に応じた救命処置等を理解する。 			
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)			
使用教材	改訂第9版救急救命士標準テキスト			
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	観察	観察の目的と意義、バイタルサイン	
	2	現場活動の基本	状況評価～全身観察・重点観察	
	3	全身状態の観察	外見、気道、呼吸、循環	
	4	局所の観察	観察結果の表現～頭部・顔面・頸部	
	5	緊急度・重症度判断	緊急度と重症度	
	6	資器材による観察	パルスオキシメーター～血圧計	
	7	救急救命士が行う処置	気道確保・声門上気道デバイス	
	8	まとめ	まとめ	
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 				